

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk15075
s24419
神機構-909

③施設名等

名称：	強羅暁の星園
施設長氏名：	佐藤 健
定員：	50名
所在地（都道府県）：	神奈川県
所在地（市町村以下）：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1945/10/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員：	24名
職員数 非常勤職員：	7名
専門職員の名称（ア）	保育士
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記専門職員の人数：	5名
専門職員の名称（ウ）	社会福祉士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記専門職員の人数：	3名
専門職員の名称（オ）	教員
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（カ）	栄養士
上記専門職員の人数：	3名
施設設備の概要（ア）居室数：	8部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	アフターケア室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>基本理念 日々の生活の中で児童の一人の人間としての権利を守り、児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活することができるよう、またひとりの社会人として成長するように養育・支援する。</p> <p>養護の目標 誠実・・・自分の行動と言葉に責任を持つ子 勤勉・・・毎日の生活のなかで、忍耐をもって行動する子 愛徳・・・まわりの人やものに温かい思いやりをもって大切にする子</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>○約800年振りに起きた箱根山の噴火に伴い、噴火警戒レベルが3に引き上げられ、施設の温泉も止まり、行事や4校の実習の中止、外部研修のキャンセルなど、昨年度は混乱の1年となった。そのような中、新たな取り組みとして、児童相談所や学校と共同で、管内施設交流会や研修会を企画し、実施している。</p> <p>○ユニット内のキッチンを使用した食事提供が望ましいと言われているが、職員が食事作りや洗濯などの家事に追われていると、子どもたちに目が行き届かなくなることがある。16時から18時にかけては問題が発生しやすいことから、施設では調理職員が調理室で作ったものを提供している。夕方の時間帯を職員と子どもたちが共有し、汗を流し、公文式学習や宿題を一緒にに行い、子どもたちが安心感をもって生活を送ることができるよう支援している。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/6/20
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/3/10
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

①子どもと職員との愛着関係・信頼関係を重視した愛情ある支援
 子どもたちの抱える課題を十分把握し、幼児期の子どもたちとは愛着関係の形成を、学童期の子どもたちとは信頼関係を、中・高校生とは相談のできる関係を重視した支援を行っている。「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」と全職員が笑顔で声をかけ、学校から帰ってから子どもたちと一緒に遊び、話し合い、安心感を持てるような関係作りをしている。保護者との別れの体験を、職員がしっかりと受け止め、愛情深い関わりを行っている。子どもたちの思いや希望を聞くことを、とても大切にしている。

②習慣としての学習・進学支援、進路支援
 学童児は毎日椅子に座って勉強する習慣をつけることを目的に、公文式学習を行っている。公文式の指導者講習を職員が受け、子どもたちの指導にあたっている。中学生になると受験勉強があるため、それまでに学習の習慣が身に付くように、公文式学習を行っている。中学生は職員と進路について話し合い、自分の目指す大学や職業を決めている。今年度は、国立大学や私立大学を目指して、受験勉強をしている子どもたちがいる。地域には、通うことができる塾がないため、通信教育など活用し、子どもたちは各自で勉強をしている。

③歴史ある建物を大切に、工夫・活用した支援
 昭和44年からの歴史のある建物を、職員も子どもたちも大切にしながら、生活を送っている。土地柄、お風呂は源泉かけ流しの温泉で、6人部屋の居室内を工夫し、個別のスペースを確保できるようにしている。ベッドや学習機の配置を工夫し、子どもたちが学習に集中できるようにしている。リビングには子どもたち皆が集まり、憩いの場となっている。子どもたちは、一人でいるよりも、リビングで皆と一緒に過ごして、安心した生活を送っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回も前回に引き続き公益社団法人神奈川県介護福祉士会に第三者評価を実施して頂きました。遠方にもかかわらず、事前に全職員向けの「第三者評価事業と自己評価について」の研修会を実施して下さい、初めて受審する新任職員達にも分かりやすく、第三者評価事業の目的や意義について説明して下さい、効率よく受審させて頂くことが出来ました。
 受審当日はただ単に項目ごとについての聞き取りや評価をされるのではなく、前回受審させて頂いた時からの施設の変化や成長にも目を向けて下さり、大変ありがたい評価をして頂いたと感じています。課題として挙げて頂いた内容については、職員間で共有し、更なる向上を目指し邁進していきたい所存です。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
前年度の施設長との面接の内容を踏まえ、養護計画会議にて、「養護計画」を作成している。「養護計画」には、施設の基本理念や養護の目標を示し、職員全員に配布している。基本理念は、施設内にも掲示し、内容を確認できるようにしている。また、施設のパフレットやホームページにも掲載して、周知を図っている。施設入所時には必ず見学を実施して、施設の方針を保護者に説明している。子どもたちには、新年度の「全体集会」の場で、新任職員を紹介するとともに、施設の方針や取り組みの内容をわかりやすく説明している。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	

2

<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

自治体が「子ども・子育て支援計画」を策定しているが、詳細の確認はこれからになる。経営状況の把握については、事務職が中心に行っているが、職員会議の場で、処遇職員も、子どもたちの生活に直結することから、今後の予算などを確認している。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	

【コメント】

昭和44年からの建物なので、建替えに向けた財政面の確保と、建替え後にそこで働く人材をどう育てていくかを、今後の課題としている。最近、幼児が少なく、学童の入所依頼が増えていることから、子どもの受け入れ体制を変更し、幼児については、混成寮にて子どもたちの養育・支援を行うこととした。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	

【コメント】

「家庭的養護推進計画」を策定し、今後の課題や問題点を捉えている。施設の建替えに向けた財政面の確保と、人材育成を含めた体制の整備を視野に入れ、今年度の施設運営と児童処遇の基本方針を定めている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	

【コメント】

中・長期的な課題を踏まえ、単年度の「養護計画」を策定している。28年度の「養護計画」の重点目標に、①児童会活動の活性化と充実、②児童の生活日課の確認と周知、児童の生活環境整備と整理整頓の教育、③健康な体を作るための食事教育、④職員の人材育成と権利擁護を置き、具体的な取り組みにつなげている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。			
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	

<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

「養護計画」は、部署会議や職員会議であがった職員の意見を取り入れ、また、子どもたちの日頃の様子を確認して、施設長が叩き台を作り、3月の養護計画会議の場で内容を確認している。今年度は、「健康な体を作るための食事教育」として食育に力を入れて、レトルト品を使わず、手作りの食事を提供している。栄養士3名が2週間ごとに交替して献立表を作成し、バラエティのある食事となるよう努めている。また、全国の「ご当地メニュー」を提供したり、行事のメニューに子どもたちの意見を取り入れたりしている。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

7

【コメント】

毎年、クリスマス会行事の前に、保護者会を開催している。保護者会には、学校の教員や保育所の保育士も参加しているが、保護者の参加は10名前後で、年々参加する保護者が少なくなっている。保護者会で「養護計画」の説明も行っている。子どもたちへの「養護計画」の周知については、日常の関わりの中で口頭で説明することが多い。調理室の横の掲示板は、子どもたちがよく見るので、行事などの案内を掲示している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果	
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○	

8

【コメント】

養育・支援の質の向上に向け、今年度より会議室に5台のパソコンを置き、記録する取り組みを始めている。パソコンは会議室からは持ち出さず、すぐに情報を共有できるようにしている。パソコンの書式には、他者からのコメント欄を設け、先輩職員などからの意見を受けることができるようにしている。パソコンは導入したが、職員同士の話し合いを基本にして、職員間のコミュニケーションを大切にしている。先輩職員からいつでもスーパービジョンを受ける体制も整えている。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

9

【コメント】

第三者評価の自己評価に定期的に取り組んでいる。年度末に全職員に自己評価のシートを渡し、記入、提出している。内容は統括主任がまとめ、職員会議で報告している。自己評価結果から明確になった課題については、改善や次ぎの取り組みにつなげている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	10
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○	
【コメント】			
今年度より、新しい施設長となる。施設の基本理念や方針を大切に、今年度より施設内に掲示している。また、これまでの養育・支援のあり方も大切にしてくれ、職員もやり方を見てもらっている。就任1年目だが、記録の効率化を図ったり、環境の美化に取り組んでいる。子どもたちとの関わりも密にとり、子どもたちの学校などへの送り出しも毎朝行い、子どもたちの部屋にも積極的に入り、施設長の姿勢を示している。			
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	
【コメント】			
児童相談所や障害関係の施設に関わっていた経験から、遵守すべき法令などに熟知している。朝の申し送りや職員会議の場で、職員に対しても、遵守すべき法令などを伝えている。また、経営に関する研修会や勉強会にも、施設長が積極的に参加している。			
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	12
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○	
【コメント】			
施設長が、職員や子どもたちと積極的にコミュニケーションを図っている。施設の行事にも必ず参加している。職員の意見を養育・支援の質の向上に反映するため、9月に職員との個人面接を行い、職員の振り返りや目標を確認している。			
②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	13
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	

<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設の建替えを視野に入れ、今、現実に取り組めることを少しずつ行っている。記録の効率化や環境の美化、手作りの調理とともに、ユニット型の施設になった時の職員体制の準備も行うこととしている。職員が根付くことが基本で、職員が補充できれば、現在中止している「部屋調理」なども行っていきたいとのことであった。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	

【コメント】

福祉人材の確保はとても厳しい状況で、就職フェアなどに参加しても、学生や求職者がとても少ない現実がある。また、保育園の増加から、保育士の確保も難しくなっている。新しい人材は、実習生から就職につながるが多いため、今後も実習生の受け入れも積極的に行っていく予定である。「ここでしか通用しない職員は育ててはいけない。若い職員が父親や母親になったとき、子どもたちにとって本当にいい親になってほしい」ことを、人材育成の方針としている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	○	

【コメント】

現時点では、職員が「将来を描ける」ところまでには至っていない。施設の立地条件や児童養護施設の仕事の内容から、若い職員は、仕事の継続か結婚を選ぶか悩むことが多く、勤続年数が低下している原因のひとつになっている。夜の時間帯も仕事に就くことがネックとなっている。施設の建替えに向けて、どのような体制を作っていくか、今後の大きな課題として捉えている。

(2)	職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	

	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		
【コメント】			
職員の勤務状況や有給休暇の取得状況については、事務が把握するようにしている。有給休暇の取得状況は概ね良好である。夏の休みと冬の休み、冠婚葬祭や体調不良時の勤務交替など、職員間の普段の関係作りができていて、問題なく行われている。職員の親睦会として「親和会」があり、積立金を使って旅行に行ったりしている。職員の平均勤続年数は4年弱で、勤続年数の低下が現状の課題と考えている。			
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
来年度の体制、現在のこと、何をやっていきたいか(目標)、振り返りを含め自分を活かしているか、部署変更の希望などのアンケート票を、9月の職員会議で配布して、施設長との面接の資料としている。また、個別面接の他、日常の場面で統括主任が職員と話し合いを行い、職員の目標の達成に向け、何をどう活かすかアドバイスしている。			
②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
28年度の重点目標に、職員の人材育成を置き、統括主任が研修計画書を作成している。外部研修の派遣は、勤務調整を行い、統括主任と主任が話し合いを行い、参加者を決めている。「研修案内のファイル」を備えているが、新人職員が多いことから、自分で参加を希望していただくことは少ない。施設の立地条件から横浜などへの研修参加が難しいことから、昨年度、児童相談所に働きかけ、事例検討会以外に複数回の管内研修会を開催することができた。			
③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を奨励している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
昨年度は新人職員が多かったことから、外部研修の派遣が少なかったが、今年度は昨年度の3~4倍の外部研修に参加している。来年度は、外で学習してきたものを内部で議論、消化していく予定である。内部研修は、その時のニーズを確認しながら、統括主任が計画している。外部講師を消き、ことばキャンプやCAP、性教育の研修などを行っている。神児研の施設間交流研修にも参加している。			
(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20

<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受け入れ担当職員を配置し、保育実習を中心に、多くの実習生の受け入れを行っている。今年度も16校32人の受け入れを予定している。実習生の受け入れにあたっては、事前にオリエンテーションを実施して、本人の家族構成などを聞いて、配置する寮を決めている。実習修了後、就職する学生も多い（今年度3名、次年度2名）ことから、今後も積極的に受け入れを継続していく予定である。実習を終えた学生は、大文字焼きや施設の行事にも、参加している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	21
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○	
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

以前は法人全体で作成していたホームページを、各施設で作成するようになって2年目となる。また、半年（6、12月）に1回、「園報・暁の星園」を発行し、児童相談所や地域の自治会、学校関係、ここ数年の卒園生、ボランティアの方々に配布して、運営の透明性を確保する取り組みを行っている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	22
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	

【コメント】

法人の事務研修に参加して、適正な経営や運営が実施できるよう取り組んでいる。子どもたちに必要な物品購入も、一人の職員で決めることはせず、部署会議で職員が話し合いを行い、起案するようにしている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	23
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○	
<input type="checkbox"/> 子ども個々の個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	

<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎日の子どもたちの学校への送迎の際など、地域の方たちとは日常生活の中で自然に触れ合っている。子どもたちは、地域のお祭りなどの行事に多く参加し、職員も行事や会合に参加している。職員が小中学校のPTAの役員や自治会の班長を担い、子ども会も施設の子どもたちが全体の8～9割を占めるので、職員が積極的に手伝っている。子どもたちは、毎週日曜日に自治会の清掃に参加し、自治会の防災訓練にも参加している。地域との関わりをとても大事にし、地域の理解ある温かい支援を受けて、子どもたちが生活を送っている。

② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	24
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

ピアノや美容、子どもたちとの遊びやスポーツの援助に、個人やグループのボランティアが活動している。ボランティアは、町の広報で募集を呼び掛けたり、施設内や町役場で育成講座を開いている。施設の立地条件から、子どもたちの学習を支援してくれるボランティアの受け入れが難しく、課題としている。全職員が公文書の指導者研修を受け、子どもたちの学習の支援を行っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	

【コメント】

5か所の児童相談所からの措置により、子どもたちが施設で生活を送っている。児童相談所とは、自立支援計画の策定や評価時、また、引き取りに向けてのカンファレンスや合同ミーティングなどで、定期的な連携を行っている。子どもたちのアフターケアについては、必要な子どもは“一生”と捉え、関係を継続している。ここ17年のうち、職員との直接のやりとりや子ども同士のつながり、大文字焼きの行事などの参加により、87%の子どもとのつながりを確保している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	a	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

施設の図書室などを地域に開放している。子ども会の話し合いは施設の図書室を使用し、中学校の広報の作成も図書室を使用している。地域から希望があれば、いつでも施設の設備を利用してもらっている。施設保有の車を、地域に貸し出したこともある。また、学校の教員を対象に、職員が小学校で人権教育の講義を行ったりしている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="checkbox"/>

27

【コメント】

地域柄、温泉場が多いことから、要支援家庭が多いという特性がある。町や学校からの依頼により、職員が相談援助を行っている。職員がチームを作り、地域のソフトボール大会やバレーボール大会に参加して、日頃から地域とのつながりを深める努力を行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1)	子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>

28

【コメント】

児童（小学校2年～6年）と職員に向け、CAP研修を実施して、子どもたちのQOLを高めるため、権利について学習する機会を作っている。また、高校生には、「ことばキャンプ」の研修を実施する予定である。「養護計画」の重点目標に権利擁護を置き、職員会議の場で周知を図っている。子どもたちの入所にあたっては、児童相談所や施設の職員が、「権利ノート」や投書箱の説明を行っている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

29

<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

【コメント】

子どもたちは成長の過程で、自分のスペースを確保したいという気持ちが強くなっていく。職員が子どもたちと話し合いを行い、家具の配置などを工夫して、プライバシーが確保できる空間を作っている。虐待の防止に関しては、厚生労働省の「被措置児童虐待対応ガイドライン」に基づき、職員全員が理解を深めることができるよう、話し合いの場を設けている。プライバシーの保護に関するマニュアルは、特に作成していない。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	

【コメント】

養育・支援の提供に関して、基本的な部分を変更することはないが、保護者への説明の中で、細かい内容の変更はその都度説明している。保護者が理解しやすいように、アセスメントシートの見直しを行っている。インフルエンザの予防接種は、保護者に電話で同意をもらっている。施設のパンフレットを役所や児童相談所に置き、情報提供に努めている。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a	31
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○	
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○	

【コメント】

養育・支援の内容は、子どもや保護者に十分説明を行い、納得してもらうようにしている。内容が理解できない子どもは、必要に応じて、保護者に個々の子どもの状況を文書にて報告している。子どもや保護者の同意については、記録にきちんと残すようにしている。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a	32
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○	

【コメント】

家庭への引き取り、移行にあたっては、細心の注意を払い、要保護児童対策地域協議会や児童相談所、市町村が見守りを継続できるよう連携している。施設側も児童相談所と連携し、家庭を訪問するなどの支援を行っている。子どもが退所した後も、大文字焼きやもちつきなどの施設行事に、参加を呼び掛け、子どもたちがいつでも相談できる関係性を保っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果	33
<p>① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	a	
<p>【コメント】</p> <p>月に1回、部屋会議やリーダー会議を開催し、子どもたちのニーズを把握したり、職員から情報提供を行っている。子どもたちの声は、職員会議の場で報告し、内容を全職員が共有し、検討している。定期的に苦情受付担当者や指導員から、子どもたちに聴き取り調査を実施している。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		34
<p>① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。</p>	a	
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちからの苦情は、これまで特別大きなものはあがっていない。保護者からの苦情に対しては、統括主任と事務員を受付窓口としている。苦情があがった場合には、受付から解決までの記録を整備し、内容を全職員に周知している。</p>		
<p>② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。</p>	a	35
<p>【コメント】</p> <p>毎月、部屋会議やリーダー会議を開催し、子どもたちが思いや意見を表出できる場を設けている。子どもたちからの相談で、検討が必要な場合には、部署会議にて迅速に対応するようにしている。子どもたちからの相談は、担当職員に限定せず、子どもたちが話したい時に話したい職員が受け止める体制を整えている。相談の場は、個室であったり共有の場であったり、その時の状況で決めている。</p>		
<p>③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。</p>	b	36

<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	
【コメント】		
<p>子どもたちからの相談は、子どもたちが話しやすい職員が対応する体制を取っている。投書箱は設置しているが、子どもたちからの相談は、直接の相談であったり、メモ書きであったりすることが多い。相談内容で検討が必要な場合には、部署会議などで迅速に対応するようにしている。現在、公文書の学習を取り入れているが、中学生からの希望で、通信教育を導入している。</p>		
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果	
<p>① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/>リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	37
【コメント】		
<p>事故が発生した場合には、主任や施設長に報告を行い、「事故取り扱い要領」に基づき対応している。また、部署会議の場で、事故の原因や再発の防止、改善策について話し合いを行っている。今年度、不審者対応マニュアルを作成している。</p>		
<p>② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/>感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/>感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	38
【コメント】		
<p>感染症の対策は、厚生労働省のホームページに記載された内容に沿って対応している。発生時には、迅速な対応を行うよう心がけている。ノロウイルスが発生した場合には、罹患した子どもを一部屋に集め、人の出入りを禁止している。床やトイレ、食堂を消毒し、ごみの処理方法なども徹底している。子どもたちや職員のうがいや手洗いを励行し、迅速で適切な対応をすることで、感染が拡大しないように努めている。</p>		
<p>③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/>立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/>食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	39
【コメント】		

月1回の避難訓練も、火災や地震想定訓練だけでなく、噴火を想定した訓練も実施している。災害時のマニュアルを整備し、町の防災訓練にも、複数の職員が参加している。噴火が発生した時には、県から子どもたちを他施設に分散させたらとの提案があった。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
子どもたちへの養育・支援は、「養護計画」に基づき提供している。「養護計画」は職員全員に配布し、統一した支援を提供できるようにしている。また、子どもたちそれぞれに自立支援計画を策定している。自立支援計画の内容は、職員会議の場で内容の確認を行っている。			
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
養育・支援の実施方法については、見直しの時期は明文化していないが、年度末に行い、記録に残している。子どもたちからの意見、要望に対しても、職員の話し合いの場を持ち、職員全員が意見を言える仕組みを作っている。			
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。			
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			

6月と12月、児童相談所の職員と定期的に子どもたちの支援のあり方を検討、協議する場を設けている。自立支援計画書の目標やニーズが、どの程度達成されているかを確認し、記録に残している。パソコン内の支援記録は、職員がいつでも閲覧が可能とし、子どもたちに問題が発生した場合には部署会議で解決策を検討している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○	

【コメント】

自立支援計画は、緊急の場合を除いて、変更の仕組みは作っていない。年1回の見直しは担当職員が行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

子どもたちへの支援にあたって、軽微な内容は口頭で行っているが、職員全員が周知しなければいけない引継ぎ内容は、パソコンに記録し、内容の共有に努めている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	

【コメント】

自立支援計画書や、それに伴う記録類は永久保管のため、鍵のかかる場所で保管している。他県へ移ったり、退所していった子どもの記録は、方が一何が起こっても他機関に提出できるよう、保管している。各会議録は3年間保管している。記録についての研修は、最近は行っていない。今年度よりパソコンを導入したため、記録のあり方については、現在、模索中である。

内容評価基準（41項目）A－1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	A1
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	A1
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちの最善の利益を目指し、職員研修を積極的に行っている。現在、若い職員が多いため、先輩職員や主任、施設長からスーパービジョンを提供する仕組みを作っている。子どもたちにとって職員は、相談事や困りごとを聞いて、一緒になって解決してくれる安心できる存在であると認識している。子どもたちの養育にあたっては、できることは子どもたちがすすんで行うことができるよう自主性を尊重し、無理強いしない環境を整えている。</p>		
<p>② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	A2
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちの生い立ちは、伝えるタイミングを見ながら説明している。また、本人が知りたいという気持ちを尊重し、職員会議で話し合いを行いながら、子どもたちに伝えるようにしている。</p>		
<p>(2) 権利についての説明</p> <p>① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	A3
<p>【コメント】</p> <p>権利ノートについては、苦情担当の職員と児童相談所の担当福祉司から、年1回、子どもたちに説明を行っている。職員に対しても、年数回、子どもの権利擁護に関する研修会を開催している。</p>		
<p>(3) 他者の尊重</p> <p>① A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p>	<p>a</p>	A4

<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども同士のトラブルは、基本的に本人同士が解決するように支援している。年齢が上になると、職員が間に入らざるを得ない状況もあるが、これまで解決が困難だった事例は、特にない。他者との交流については、高校生は職場体験があり、ホテルや老人ホームなどに出掛けている。

(4) 被措置児童等虐待対応

① A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

虐待の対応については、厚生労働省の出しているガイドラインに沿って、即時対応するように心掛けている。CAP研修やことばのキャンプの研修を行い、虐待の発生防止に努めている。子どもたちの間で問題が起きた時には、複数の職員で対応することとしている。特に職員が手薄になる時間帯での発生に気を付けている。

② A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

何が被措置児童等への虐待行為にあたるのか、被措置児童等虐待対応ガイドラインに記載されている内容を、職員会議で読みあげて周知している。ただし、周知の徹底までには至っていない。

③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
厚生労働省の被措置児童虐待対応ガイドラインに基づき対応している。また、職員に対して、虐待防止の研修を年1回実施している。新人職員には、年2回実施し、施設長や役員に対しても、研修を実施している。

(5) 思想や信教の自由の保障			
①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<input type="radio"/>	

【コメント】
以前、クリスマス会には子どもは出さないという保護者がいて、本人や保護者、施設職員で話し合いを行い、解決した事例があった。子どもたちの気持ちを最大限配慮し、思想・信仰の自由を担保している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮			
①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	<input type="radio"/>	

【コメント】
乳児院から移ってくる子どもに対しては、施設職員の写真を事前に見せたり、施設の見学を複数回行うなど、入所に際しての不安をできるだけ解消できるように努めている。事前に子どもの好きなメニューを聞き、ウエルカムメニューとして準備している。ホワイトボードに、「何日に〇〇さんが来ます。こんな食べ物が好きです」と記入して歓迎している。こどもたちや保護者の意向に配慮して、特に進路については細かく確認し、情報を提供している。

②			
A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10	
<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	<input type="radio"/>		
<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	<input type="radio"/>		
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>		

【コメント】
子どもたちとの間で、部屋会議やリーダー会議を開催し、子どもたちの声を聞き、子どもたちの自発性を促す関わりを行っている。子どもたちから、「ここを修繕ほしい」と言った意見が出た時には、職員も入り、一緒に考え、検討するようにしている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活			
①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	<input type="radio"/>	

	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
今まで子どもたちの洗濯物は乾燥室で干していた。退園後に子どもたちが戸惑うこともあり、子どもたちとの話し合いの中で、洗濯物は外に干すことになった。結果、光熱水費の節約につながり、夏には皆でキャンプに出掛けることができた。子どもたち自身が考え、節約につながったことで、洗濯物を積極的に外に干す子どもが増えている。			
	② A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
中・高校生は小遣い帳を自分で付け、小遣いを自己管理している。職員が最終チェックを行っている。小遣いの使い方は、子どもたちに任せ、好きな店に行き食事をしたり、買物をしている。なかには使いすぎてしまうこともあるが、失敗することも学習の一環として捉えている。高校生はアルバイトを行い、将来のために貯金していることが多い。			
(8) 継続性とアフターケア			
	① A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	a	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
家庭復帰にあたっては、子ども本人と保護者の意向を十分確認し、児童相談所と連携し、職員会議で検討している。退所後は定期的に追跡調査を行い、現状を把握するようにしている。現時点で9割近くの子どもの所在を確認している。結婚して子どもを連れてきたり、大文字焼きに家族皆で遊びにくる子どもたちもいる。			
	② A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
高校進学が困難になったり、高校を中退しないように支援しているため、措置延長や継続を行った事例は過去10年ほどないが、常に準備は行っている。ここ数年は大学に進学する子どもも多い。就労した子どもの事例では、卒園者の会社に就職した事例もある。			
	③ A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後の支援は、施設に相談窓口を設け、職業指導員が「活動状況報告」に内容を記録している。退所者には、大文字焼きや年末のもちつき大会など、年間の大きなイベントには必ず連絡を取り、施設の子もたちとの交流の場としている。退所した子どもたちが訪れることで、職員全員が支援の振り返りを行っている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。 <input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 <input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 <input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	a

A16

【コメント】

子どもとの信頼関係を築くため、担当の子どもとはできるだけ一緒にいる時間を多くとり、遊んだり話し合いをしている。子どものこれまでの生活や日常生活の様子から、感情や言動をしっかり受け止め、担当職員だけでなく、他の職員にも相談ができる体制をとって支援している。特に幼児は子どもの感情を受け止め、子どもとしっかり向き合っており愛着関係を築いている。学童児は施設で長く生活している子どもが多く、職員との関係も良好で、相談したいことがあると職員と一緒にどう解決したらよいかを整理しながら考えている。子どもが職員に相談しやすい状態にするためには、子どもとの信頼関係と職員間の信頼関係が大切と考えている。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。 <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。 <input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 <input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 <input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 <input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	a
---	---	---

A17

【コメント】

食事は基本的に調理室で作ってもらい、各部屋ごとで一緒に食べることになっているが、残ったご飯で、職員がおにぎりや簡単なものを作り、夜食としてお腹がすいた子どもに提供している。幼児は、就寝前に絵本を読んだり、オルゴールをかけたりして、落ち着いて眠ることができるよう配慮し、子どもが寝付くまで添い寝をし、安心して入眠できるようにしている。学童児の寮は、夜勤が2人体制なので、子どもが夜間目を覚ました時に、安心感を感じられないときもある。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。 <input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。 <input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	a
---	---	---

A18

<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

学童児は学校から帰ってくると、宿題をして、明日の持ち物の準備をしている。職員は声をかけながら、準備を見守るようにしている。朝は職員が、学校の準備ができていることを確認して送り出している。「今日はおむつをしないで寝てみる」と自分で言ってきた子どもを、「頑張ってる」と職員が励まし、失敗しなかった時に、申し送りして他の職員に伝え、職員皆から「良かったね」と声かけして、自信をつけたりしている。「児童会」では、スマホの使い方について、子どもの意見を聞き、職員との話し合いでルールを決めたりしている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源（ボランティア等）が十分に活用されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

未就園児は、施設内で職員と一緒に生活を送ることで、職員との愛着関係を築いている。保育園へは年中から入園し、園まで車で送迎している。小学校や中学校、高等学校、特別支援学校へは、子どもたちがそれぞれ通学している。それぞれの年齢に合ったおもちゃや遊び道具は、個人のもを持っており、学童児はカード、ゲーム機、ケン玉などが、はやっている。高校生は自分で自転車を購入し、ツーリングを楽しんでいる子どももいる。絵本や読み物は寄付のものが多い。サッカーやバスケットボール、野球道具などを使い、毎日職員は子どもたちと遊び、子どもたちと一緒に時間を待つようにしている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。		
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

職員も子どもたちも自然に、明るく、元気に、良い笑顔での挨拶があり、職員と子どもたちの関係の良さが感じられた。日常生活の習慣として、洗濯は中学生以上は自分でできるように担当職員や先輩が教えている。居室の整理整頓も日を決めて行っている。日曜日には、町内の外掃除を全員で行い、地域との関係を大事にしている。施設の電気代について、一般家庭ではどれくらいなのかを比較し、子どもたちと職員で節電の話し合いを行い、天気の良い日は洗濯物は外に干す、こまめに電気を消すことを決めて実施し、その結果、施設の電気代の節約につなげている。日常の生活について、子どもたちと職員が話し合い、子どもたちの自立に向けた支援を行っている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	

【コメント】

年少児は各部屋で、担当職員に箸の使い方を教わりながら、甘えたり楽しく食事をしている。学童児は食堂で皆と一緒に楽しく食べている。小さい子は大きい子や職員に食べ方のマナーを教わりながら、食事はコミュニケーションの場となっている。部活で遅くなる子どもは、帰ってから温めて食べられるように準備している。施設が山の上という立地条件のため、なかなか外食はできにくいのが、クリスマス前や誕生日、進学時には買い物に行く機会があり、お寿司や焼き肉、ラーメンなど、好きなものを食べてくことを皆楽しみにしている。また、各団体からクリスマスパーティーなどの招待がある。食事のマナーについては、毎日の食事の中で教えている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

処遇担当の職員は食事作りは行っていない。食事作りがあると、子どもたちから眼を離すことになるため、その時間は少しでも子どもたちのそばにいて話を聞き、寄り添っていけるようにしている。食事作りは、調理室にて栄養士と調理員が行っている。3人の栄養士が、2週間ごとに交替し、献立を工夫している。日本中の各県の郷土料理にチャレンジしようと、月に1、2回、山梨県の「ほうとう」など、各県の料理を楽しんでいる。子どもたちは、次はどの県？と、楽しみにしている。9月にアレルギーの子どもが入所してきたため、献立の作成に配慮している。これを機に、子どもたち全員にアレルギーの検査を行っている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつのはり方等、栄養についての正しい知識を教えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
入所時には野菜を食べなかった子どもが、皆と一緒に食事をする中で、皆に促されて食べるようになったなど、子ども同士の関係が良く、偏食の子どもはいない。施設の立地条件から、子どもたちが食材を買いに行くことはできないが、施設で夏野菜を作り、収穫して楽しんだりしている。年少のクラスでは、職員が魚の骨の取り方などを丁寧に教え、学童児になると魚の骨をきれいにとって食べられるようになっていく。栄養士と相談し、各寮でクッキーなどのおやつ作りを楽しんでいる。食事の準備や後片付けの決まりはないが、小さい子どもは箸の準備、大きい子どもはお茶の準備などを自然に行い、食べ終わった食器も自分たちで片付けている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】
毎日、お風呂の時に着替えを行い、中学生になると各自洗濯し、清潔なものを着用している。年少児は衣服が汚れたら着がえ、常に清潔を保つように支援している。入学式や卒業式など特別な日には、きちんとした服装で晴れの日を祝うことができるようにしている。また、七五三には美容室で着付けをしてもらい、お祝いの式典に参加している。施設内に、七五三などのお祝いの写真を飾っている。衣服は外出した時に、自分の好みのものを購入している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
各寮のリビングには、花や子どもたちの描いた絵、写真などが飾られ、各寮をつなぐ廊下にも、花や絵画、集合写真が飾られ、子どもたちの情操支援につなげている。日曜日には、子どもたちと職員で園庭や施設外の掃除をしている。子どもたちは6人ずつの小規模ユニット体制で生活している。各自のスペースは自分で片付けができるよう職員が促し、小さい子どもは職員と一緒に片付けをしている。トイレは昔の作りではあるが、きちんとルールを守って使用することなど、社会性を養うための支援を行っている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>	

年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。

【コメント】

昭和44年に建てられた施設であるため、建物は古いですが、それぞれの寮（男子寮、女子寮、混成寮（2歳から小学2年））から、他の寮にも自由に行けるようになっており、職員も子どもも仲良く関わりをもてるようにしている。子どもたちの居室は、中・高校生には引き出しを衝立にして個別のスペースを作ったり、共有スペースで皆が楽しめる雰囲気を作るなどの工夫をしている。学習時や就寝時以外は、職員や子ども同士で遊んだり、おしゃべりをしたりして、他者とのコミュニケーションを深めている。アパートで独りでののはさみしいと、卒園児が遊びに来て、子どもたちの面倒を見てくれたりしている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

気に入った洋服をずっと着ていたり、爪を切らない子どもには特に気を配り、清潔にするよう促している。冬場は、インフルエンザやノロウイルスなどの予防のために、外から帰ったら、必ずうがいや手洗いを励行している。日々の生活の中で、職員が子どもたちの健康状態を確認している。施設は日当たりが良いので、天気の良い日は布団を干している。夜尿がある子どもには、出ちゃったと言える雰囲気を作り、他の子どもに知られないよう十分配慮して始末している。交通安全教育は学校で行っているが、園の周りには信号機がないため、信号機がない場合の交通ルールを教えている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

定期的に、嘱託医による健康管理を行っている。また、東京から歯科医師が来て、毎月、歯科検診や治療を行っている。子ども一人ひとりのことを十分に把握して健康管理を行い、職員に子どもたちの様子を伝えている。先日、腹痛の子どもがいて病院に連れて行き様子を見ることになったが、夜になるとさらに痛みが激しくなり、救急車で搬送、腎盂炎で入院することがあった。ふだんから子どもたちの健康状態を細かに把握するようにしている。具合が悪く受診し、服薬する場合は、職員が薬を管理し、確実に服用できるようにしている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

学校で行う性教育を中心にして、必要に応じて職員が個別に話をしている。「性教育情報交換会」に、性教育委員の職員が交代で参加している。年度初めに、児童相談所や学校と連携し、性教育の研修を行っている。今年度は若い女性職員が増え、子どもとの年齢差があまりないため、性的な話がしづらいところがあるが、先輩職員がフォローして、子どもたちへの指導をしている。性教育については今後の課題ととらえている。

(7) 自己領域の確保

① A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a	A30
<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。		
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくとも済むような場所に留める。	○	

【コメント】

子どもたちの居室には、専用のベッドやロッカー、タンス、学習机があり、自分のおもちゃや学用品、洋服などを、自分で整理している。自分でなかなか整理ができない子どもは、職員が片付けを指導しながら一緒に行っている。幼児は寝室にベビーベッドが人数分あり、ベッドの下に衣類の引き出しがある。リビングには、それぞれの名前がついた引き出しの中に、各自のおもちゃを整理している。自分のおもちゃで遊んだり、友だちのものを借りて、子どもたちは仲良く遊んでいる。

② A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。		
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生き立ちの整理につながっている。		
<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。		
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。		

【コメント】

最近は写真をパソコン上に保管することが多く、アルバムはあるが、写真を貼ることは少なくなっている。写真は、パソコン上でいつでも確認できるようにしている。誕生会や運動会などの写真を居室などに貼り、皆で思い出を振り返っている。卒園した子どもには、書類とともにアルバムを渡している。近畿地方の祖父母の引き取りとなった子どもが、祖父母が亡くなり、施設入所に当たりにまったく情報がなく、本人が暁の星園の名前を出したことから、現地の児童相談所まで職員が出向き、強羅暁の星園入所時の写真で本人を確認し、状況報告をしてきたことがあった。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
--	---	-----

<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもたちは皆、安心して落ちついた生活を送っており、パニックになるなど、日常生活が困難な子どもはいない。子ども同士が遊んでいて、相手に手を挙げることはあるが、必ず職員と子どもたちが話し合い、大きな問題に発展することはない。日常の生活では、必ず職員と一緒にいて安心できる体制をとっている。子どもたちは安定した生活の中で、職員を信頼し、いつでも相談できるように配慮している。幼児は沢山だっこをし、職員との愛着関係を築くようにしている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

小学生が学校で喧嘩をして、相手を叩いたということがあり、学校から連絡が入ったことがあった。職員が子どもと一緒に相手の家に謝りに行き、施設に帰ってから、人を叩くのはいけないこと、いじめにつながるなどを話し合った。施設の生活では職員が必ず一緒にいて寄り添い、一緒に遊び、その中から相手への思いやりなどを育てている。子どもたちは年齢に関係なく一緒に遊んでいるため、小さい子へのいたわりや、できないことを教え合うなど、差別なく生活ができるように配慮している。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○	

【コメント】

子育てが難しい保護者が多いため、これまで強引な引き取りはない。また施設の立地から、交流が滞ることがある。引き取りについては、児童相談所と話し合いながら行っているため、職員は状況をすべて把握している。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○	

<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

非常勤の心理士が、主に年齢の低い子どもたちの心理的支援を定期的に行っている。心理士による個別のプログラムが策定されている。以前、突然暴力をふるう子どもがいたが、職員とどうしてやってしまうのか、暴力であることなど、話し合いを行った。その後、児童相談所のケースワーカーと相談し、心理士のケアを受けて落ちついた事例があった。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

① A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a	A36
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

職員は全員、公文式の指導者講習を受け、教師の資格をとり、毎日公文式学習を行っている。学力を伸ばすためというよりも、一定の時間座って学習する習慣をつけてもらうことを目的として行っているが、その結果子どもたちの学力は伸びている。現在、公立や私立の大学を目指し、受験勉強をしている子どもが数人いる。訪問調査時、小学生の公文式学習を見学したが、子どもたちは、のびのびとした状態で学習に励んでいた。高校受験、大学受験を目指す子どもが数人いるが、学習塾やボランティアの活用は施設の立地条件上難しいため、それぞれが自分で目指す高校や大学の受験勉強を行っている。

② A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

中学生はすべて高校進学をしており、中学生になると職員と進学についての話し合いを行っている。奨学金制度などの情報をいくつか知らせながら、進路については十分話し合いの機会を設け、希望する高校や大学、さらに就職などを決めている。奨学金制度は、何人か利用した実績があるが、返済費があると、生活に逼迫する状況があるのが現状である。

③ A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

地域のお店でアルバイトをしている子どもがいる。施設が山の上にあるのでアルバイト先は限られているが、地域と連携をとりながら支援している。地域では施設のことを理解してくれており、アルバイトの状況なども知らせてくれている。アルバイトの費用は、今後の自立生活のために貯金をしている。パソコンや車の免許なども取れるように支援し、就職した時に役立てられるようにしている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるように図っている。	○	
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】

入所依頼があった時点から、支援の継続性を重視し、家族の状況や変化に配慮し、家族と信頼関係を築いていくことができるよう配慮している。家族状況の確認のため、家庭訪問をして保護者の生活状況を確認しながら、家族と子どもの関係がうまくいくかどうかを見極めながら支援をしている。保護者には「園報」などにより園での生活の様子を定期的に知らせている。また、保護者に施設行事への参加を促している。

(12) 親子関係の再構築支援

① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a	A40
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

保護者との面会、外出はいつでも可能であるが、保護者の精神状態や交通の便などから難しく、面会や外出は少ない。親子関係の再構築は非常に重要な課題だが、現状として、子どもよりも親の方の問題で、子どもが親元に帰れず、施設から社会に巣立ち、自立して生活をする子どもが多い。

(13) スーパービジョン体制

① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a	A41
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○	

【コメント】

今年度は新人職員が多く、新任研修に力を注いでいる。また、中堅職員から専門的支援の助言を与える機会を設けている。また、子どもの記録類には、先輩職員からのコメントを記入する欄があり、記録からもスーパーバイズできる体制をとっている。日常の関わりの中でも、職員は施設長や先輩職員からアドバイスを受ける体制を整えている。